

でにて祭神三座にますを東中村なるは由緒も詳かにして祭神二座なるも式にあへれば此と定て可ならん

○蒲生郡十一座 大一座 小十座

大島神社

祭神 祭日 四月二日申日五月五日

社格 村社(縣社)

所在 北津田村(蒲生郡島村大字北津田)

奥石神社

祭神 稱鎌宮神社

祭日 三月初申日

社格 村社(明細帳鎌宮神社 明治十三年局一六號) (郷社)

所在 東老蘇村(蒲生郡老蘇村大字東老蘇)

石部神社

祭神

今按新撰姓氏錄石邊、公大物主、命、男久斯比賀多、命之後也とあるによらば祭神久斯比賀多、命ならん歟猶よく考へし

祭日 四月十日

社格 村社

所在 七里村 字 椿 (蒲生郡鏡山村大字七里)

今按豐浦、村安土山に石部天神、神社あり安土山の南麓を磯邊岡と云によりて石部社の稱ありと云ひ安土の舊名磯邊の里と云る如何あらん近江輿地略に磯部大明神、社七里村にありとみえたるを注進狀に祭神延喜帝とあるは疑はしと云れどこは記録ともに延喜の神名帳に石部大明神とありけむ土人の不文にて記せるものなるべければ之を以て疑ふべきにあらず故今姑志略の説に従ふ

大屋神社

祭神

祭日 三月初酉日

社格 村社

所在 本 杉村 (蒲生郡東櫻谷村大字杉)

比部佐神社

祭神 天津日子根、命

今按祭神天津彦火、瓊杵尊とあれど馬見岡、社舊記に大嵩に對し小嵩と稱するは寶殿嶽彦神山と號し天、彦根命を祀る云云式内必佐神社の本祠なりとみえ神社改蒙に彦根、神社在近江、國蒲生、郡彦根、郷、所、祭之神一座一云、大、活津彦根、命樹下山門神系圖、曰天照大神、與三素盞鳥尊、所、誓生之活津彦根、命者近江彦根、明神也とある活津彦根、命は天津彦根、命の訛り社傳に瓊杵尊と云

るも必ず天津彦根、命を誤れるにて馬見岡、社舊記に云る所證あるに似たりいかにとなれば古事記に天津日子根、命蒲生稻寸等、之祖とみえて此社の同郡にまし菅田、神社馬見、神社の同郡にますも同じ御兄弟の神縁によること明かなるにても著ければなり

祭日

社格 村社(郷社) (明治十五年九月郷社格許可)

所在 十禪師村 西里 (蒲生郡北比都佐村大字十禪寺)

今按この社を上豊浦村八幡宮なりと云説あれど確證あるにあらねば從はず

長寸神社

祭神

祭日 三月初酉日

社格 村社

所在 中郷村(蒲生郡東櫻谷村大字中之郷)

沙沙貴神社

祭神 大彦命

今按社傳祭神大彦、命少彦名、命仁德天皇敦實親王の四座と云れど少彦名、命は神代卷に鸕鷀羽を衣としたまへる事あるに附會し仁德天皇は御名大鸕鷀尊と申奉るを以て云ひ敦實親王は宇多天皇の皇子にて佐佐木源氏の祖にま

し佐佐木氏此地に住るより後に合せ祭れるものにて實は大彦命一座にますべきこと式に一座なるにて明かなり日本書紀に大彦命、是佐々城、山、君云云之祖とみえ姓氏錄にも佐々貴、山、君阿部、朝臣同祖大彦、命、之後也とあり古事記に淡海之佐々紀、山、君と云こともみえて此地に同族の住りしにても知るべきなり

神位 後醍醐天皇元應元年七月近江國沙沙貴社奉、授三二位 位、神宣

祭日 四月初午日五月五日

社格 郷社(縣社)

所在 佐々木庄常樂寺村(蒲生郡安土村大字常樂寺)

菅田神社

祭神 天津日子根、命

今按新撰姓氏錄菅田、首天、久斯麻比止部命、之後也とみえ桑名、首天津彦根、命、男天久之比乃命之後也とあるを思ふに社傳に祭神活津彦根命と云るは御兄弟の御名の同じきによりて誤れるものなるべく實は菅田、首の祖天久斯麻比止部命を主として御父神を相殿に祭りけんより御父神の御名のみ傳はりしなるべしさて本社社の祭神麻比止部、命なる時は御父子の神縁によりて次に記せる祭事もあること明かに聞ゆる也されど姑く社傳によりて活津を天津と訂せり